

30105橋梁建設工事における死傷災害100事例（-2017年）

No	年	月	発生 時	死傷災害事例	年 齢	事 故 の 型	起因物 (小)	労働 者規 模
1	2017	12	13~14	停車していたダンプが徐々に坂を下り、前進してきたユンボとの間に挟まれた。	50	7	142	1~9
2	2017	12	0~1	コンクリートの養生状況を1人で確認中に張出足場上の開口部から落下したものと推測される。墜落の原因としては、張出足場を覗きこんだ時に強風でシートが巻きあがり、つられて足場上に落ちたが、落ちた場所が開口部であったこと、また、高欄鉄筋をまたいで足場上に渡った場所が開口部であったことが考えられる。なお、夜の時間帯で周りは暗く、照明の陰になり足元が十分確認できない状況であった。	58	1	414	10~ 29
3	2017	11	16~ 17	当日、クレーン設置個所の盛土作業であり、盛土材の敷均しを行っていた。作業中のバックホーが前進したため、当該作業員がバックホーの後方に立ち入り敷均し作業を開始した。その直後バックホーが後退するのを確認したため、誘導員は避難合図を行ったが間に合わずバックホー右後方と接触し転倒した。痛みを訴えたため、直ちに病院に搬送した。診察の結果、右足首の骨折と診断された。	65	6	142	10~ 29
4	2017	11	13~ 14	吊り足場解体作業中に、安全帯を掛け直す際、足場板を踏み外してしまい3m下へ落下した。	32	1	411	10~ 29
5	2017	10	14~ 15	工区道路改良工事の現場にて50tクローラクレーンにリーダーとハンマーを設置し削孔位置にセット中クレーン本体が落下し、クレーンのオペレーターが負傷した。詳細については現	44	2	143	10~ 29

				在調査中。				
6	2017	10	14～ 15	メタルロード工事を施工中、50tクローラクレーンでグウンザホールハンマとリーダーを吊り込み削孔位置にセットする際クレーン本体が転倒し約6m下に落下した。下部の削孔口付近にて作業中の被災者にクレーンが直撃し死亡した。詳細については現在調査中。	27	1	143	1～9
7	2017	10	0～1	A2橋台下り線側の側道を規制し、化粧板（長さ約6m幅0.9m重さ約400kg）の撤去作業中ローリングタワ上に立ち、レバブロックで化粧板を降下していた際、橋台側面にあるコンクリート壁に化粧板が接触し、降下の障害となった。レバブロックが吊元から外れ化粧板が落下するのを見て逃げた時、右足を捻り損傷した。	24	19	921	1～9
8	2017	10	0～1	A2橋台下り線側の側道を規制し、化粧板（長さ約6m幅0.9m重さ約400kg）の撤去作業中橋台に立ち、レバブロックで化粧板を降下していた際、橋台側面にあるコンクリート壁に化粧板が接触し、降下の障害となった。レバブロックが吊元から外れ化粧板が落下し胸部に接触した後、大腿部上に落下した。	42	4	361	10～ 29
9	2017	10	16～ 17	吊足場を撤去作業中、作業員同士が交差した際、安全帯のフックを外し吊足場上から吊りチェーンを投げた時、体にチェーンが引っ掛かり転落した。	20	1	411	10～ 29
10	2017	10	16～ 17	橋梁災害復旧工事現場にてA2橋台仮締切内（高さ0.9m）での捨石投入、敷均・水中ポンプ（2インチ）設置の作業を行い、他作業員の作業終了の声とともに仮締切内から上がった際に、鉄骨製切梁（高さ1.7m）に頭部を強打し、そのまま仮締切内に転落、負傷したもの。	67	3	412	30～ 49
11	2017	10	11～	被災者はコンクリート打設足場の階段から下りようとした際、バランスを崩し階段から飛び降り、回転して寝そべるよ	68	1	413	10～

			12	うに橋面コンクリート上に転倒した。					29
12	2017	9	9~10	吊り足場の解体作業場所で、SKパネルを使用した吊り足場を三人一組で床面パネルを取り外す作業を行っていた。被災者は自分の安全帯のフックを前方の吊りチェーン金具から取り外し忘れていた事に気づき、手を伸ばして取り外したが、この時あわてていたため2丁掛けのもう一方のフックを後ろの吊りチェーン金具に掛ける事を忘れていた。中央の作業者は外したパネルを床面に引き入れる為に、被災者方向にパネルを押し向きを変えようとしたが、被災者の位置を確認していなかった為、被災者の腰に当たりバランスを崩して足場床面から（約3mの高さ）橋下の法面ブロック部に墜落した。	20	1	411		1~9
13	2017	9	11~12	倉庫内において、元請工事現場で使用する道具を片付けていたところ、足元に置いてあった道具につまずき転んで左胸を打った。	47	2	416		—
14	2017	8	15~16	第一高架橋足場内で剥離剤塗布作業中、板張防護足場内の中段足場にて負傷した。	45	12	519		10~29
15	2017	8	14~15	橋脚足場上で、上部にある吊足場の一時的な開口部を復旧する作業中、上部作業員が準備した一本の足場板結束用の番線を引っ張ったところ、番線の一部が上部足場に緩衝し跳ね左眼球にあたり、損傷した。	60	8	521		10~29
16	2017	7	16~17	両手にテープとクロスロットを持ち、少し傾斜のある通路を通行しているとき、バランスを崩して転倒し、右大腿部を打撲した。自力で立ち上がることができなかった。病院の診察の結果、右大腿骨頸部骨折と診断された。原因としては、急いでいて周囲を気にかけなかった、通路に石コロがあり、滑り易い状態であった、左膝が痛くて踏ん張れなかった、両手に物を持ったため手を使えなかったことなどが考えられる。	39	2	417		100~299

17	2017	6	8~9	事務所2階より階段を下りている時に足元が滑って、足首を捻ったまま一段落ち、左足踵を骨折した。	48	1	413	1~9
18	2017	5	13~14	耐震補強工事（その5）の現場において、P28とP27の間に仮置きしていた鉄筋（D35、D38、L7m）を8本結束し、10tラフタークレーンにて吊り込み、P28へ移送している際、1本の鉄筋が斜めにずれているのに気づき、吊ったまま直そうとしたところ、鉄筋に左薬指の先端を挟まれ挫創した。	44	7	372	1~9
19	2017	5	16~17	道路改良工事の現場にて、バックホウの排土板に足をかけて乗ろうとした際に滑って地面に転倒し、右肩を負傷した。	72	2	142	10~29
20	2017	5	21~22	4t平ボディ車の荷台に自分の荷物（着衣等）を置いてあり荷台に上がりそれを降ろした後、自分も降りようとしたところ、バランスを崩して怪我をした。	38	3	221	30~49
21	2017	4	10~11	会社資材置場にて、片付け作業中に重ねていた合板の上で足を滑らせて横向きに転倒し、右側の腕と足を打撲した。	67	2	522	30~49
22	2017	4	10~11	被災者がボーリングマシンを相方と移動作業中、油圧シリンダーをにぎり、油圧レバー操作を行った時、油圧シリンダーに挟まれ指を被災した。	53	7	143	1~9
23	2017	3	10~11	目地復旧工の目地はつり作業において、右足を地面岩場に掛けた際に足を滑らせ、バランスを崩し転倒し、岩場で陰嚢を打ち腫れて裂傷した。	47	2	711	10~29
24	2017	3	11~12	鉄筋コンクリートの橋台を作る工事現場で橋台上部（地上約15m）の壁の鉄筋を組立作業中に、次の作業の段取りを行うため、内部足場から対面の足場へ移動するとき、外周の足場通路を移動せず、近道をし不安定な鉄筋の上を移動中、横筋に足を掛けたところ、横筋がはずれ体勢を崩し転倒した。その際、左大腿部に縦筋Φ16が刺さった。	50	3	521	50~99
				主桁定着部（C4）のウォータージェット研り作業時に研りガ				

25	2017	2	14~15	<p>ラが養生内に溜まり、その中での作業だった為足元が悪くガラを踏み外し、施工中に転倒し、ウォータージェットが暴れ、そのウォータージェットにより被災した。（ウォータージェットは手を離すと止まる構造になっているが、水が完全に止まるまでに1~2秒かかる。その1~2秒の間に被災した。） 救急搬送後、直ちに手術を行い全治2週間程度の診断。その後は自宅療養、通院での治療およびリハビリの見通し。</p>	27	6	169	—
26	2017	2	16~17	<p>4tユニック車にて走行中、スリップして対向車線にはみ出して路外に逸脱し道路標識の支柱に衝突し横転した。現場は直線道路でブラックアイスバーン状態であった。なお、被災労働者は助手席に乗っており、運転は同僚が行っていた。</p>	71	17	221	1~9
27	2017	1	14~15	<p>工事におけるA3椅台型枠のPコン撤去作業の際、立馬（H=600）を用い作業をしていたが工具（Sバール）が必要となり、取るために一旦立馬から降りようとしてバランスを崩し転落し、転倒して左足を強打した。</p>	61	19	371	—
28	2017	1	11~12	<p>除雪作業を終え、昼食をとるために詰所へ戻る途中、道路で滑って臀部を打ち被災した。</p>	59	2	417	10~29
29	2017	1	17~18	<p>土間プロペラを歩道部から車道部に2人で移動しようとした時に、ハンドル部分を持っていた被災者がバランスを崩して、鉄筋上に落下した。</p>	80	1	416	—
30	2016	12	10~11	<p>暗渠排水工事の現場内で、現場内を移動していた時に、場内に落ちていた柄の折れたかき板の刃を踏んでしまい、はね返ったかき板の柄が、被災者の左太ももに突き刺さり負傷した。</p>	48	8	379	1~9
31	2016	10	14~15	<p>高架橋修繕工事の作業現場足場上で、台風養生のためシートを束ねる作業をしており、被災者がシート上に散乱している紐を取ろうと筋交をくぐった時、ブルーシートの下に床材が</p>	51	1	411	10~29

				あると勘違いし、シートを踏み抜き墜落した。				
32	2016	10	23～ 24	県道跨道部分において、ラフテレーンクレーンで足場朝顔部を解体する作業を行っていた。予定していた最終パネルの解体作業に着手して、クレーンワイヤーの玉掛作業を行うため、被災者と別の作業者が上部へ移動した際に、当該パネルの上部が外側へ倒れて、被災者が下方の河川部へ墜落した。	39	1	411	10～ 29
33	2016	10	16～ 17	現場で敷鉄板をオペレーターが重機にてダンプに積込移動する作業を行っていた。その際、手元作業員がダンプ荷台にあらかじめ敷いていたりん木がずれていたため元に戻そうと右腕を伸ばした時、敷鉄板がすべり落ち右腕に当たり受傷した。	56	4	521	—
34	2016	10	17～ 18	作業現場から現場事務所へ向かうため、工事用車両を運転中、反対車線を走行中の対向車が、センターラインをはみ出してきたため、互いの車両前方右側が衝突した。	39	17	231	10～ 29
35	2016	9	10～ 11	倉庫が狭隘の為、もっている仮設資材を利用して上屋づくりをしていた。コンパネをしく際、50cmほどのはね出し部分をふみこんでしまい、板がおれて落下してしまった。	20	1	411	10～ 29
36	2016	9	16～ 17	橋りょう塗替作業に伴う足場仮設中、作業床吊りチェーンの弛み手直しの際にチェーンが外れて、バランスを崩し、14m下に墜落した。	48	1	411	1～9
37	2016	9	14～ 15	仮締切内において、山留解体中、腹起材解体材を作業基面より荷揚げする際に残置土留材への接触を避ける為、右旋回しながら荷揚げを行った。被災者が荷振れを予想し待避していたが、周囲既存部接触等の原因により、解体材が想定外へ移動し、残置切梁と腹起解体材に左膝を挟まれ被災した。	38	7	212	10～ 29
				工事用道路の工事で、3名で大型土のうをバックホウを使用し、移動する作業を行っていた。被災者は、大型土のうからワイヤーの先の吊金具を外す作業を行っていた。何個か移動				

38	2016	8	8～9	しているうちに被災者とバックホウのオペレーターとの合図が曖昧になり、確認不足によりバックホウのオペレーターがワイヤーを上げてしまい、被災者の左小指が吊金具と大型土のうの帯に挟まり、小指の先を負傷した。	38	7	141	1～9
39	2016	8	9～10	残土積込場所において、鉄板をクレーンを使用してダンプに積込作業をしている途上、クレーンで吊り上げた鉄板の荷振れを調整するため荷台に上がり、その鉄板に手を添えた。その時吊り上げた鉄板が被災者側に斜めに振れてきた為、後ろに押されダンプの鳥居部に左胸が挟まれ、胸部圧迫・肋骨等を骨折した。	44	6	142	1～9
40	2016	8	15～16	工事内で作業が終りベント2段目の梯子を下りる際、手元が滑り落下。	40	1	371	1～9
41	2016	7	11～12	資材置場で片づけ作業をしている時に、立て掛けておいた高さ1.3m重さ45kg位のH鋼が倒れて左手の親指に当たり負傷した。	21	5	521	1～9
42	2016	7	11～12	法面の切株をチェーンソーで切り揃えていた所、キックバックして右足首下に、刃が接触して裂創した。	37	8	136	—
43	2016	6	11～12	道路に於いて、水中ポンプによる排水準備作業で、ホースの先端をフェンス越しに側溝に引っ張る作業を行っていた。フェンスを乗り越えて着地した際に、左足の人差し指と中指の間に釘が刺さった。	62	9	521	10～29
44	2016	6	8～9	現場内のアルミ梯子を降りる途中で、トレーラーより主桁を荷卸し作業中、小雨の中梯子が滑りやすい状況で、足を滑らせてバランスをくずした。転倒し、荷台に手をついた際に手首を負傷した。	33	1	371	10～29
45	2016	6	9～10	桁上で、仲間と休憩するために、横構上を移動していた時、決められた経路を通行せず、足元確認を怠り、足を踏み外	43	1	416	10～29

				し、落下し、被災した。				
46	2016	5	10～ 11	現場点検のため、現場周辺に車を止め徒歩で現場に向かう途中、1m程度の法面を駆け上がったところ、足を滑らせ転倒し、右足を負傷した。	48	2	711	1～9
47	2016	5	9～ 10	橋脚の天端にシーリング施工のためのマスキングテープ貼り付け中、高さ5mの足場上より落下した。	55	1	411	1～9
48	2016	5	8～9	剛性緊張したケーブルを構台上に降ろす作業中に、ウィンチを緩め緊張力がかからなくなった状態でウィンチから外し手に持ち替えて柱頭部ブラケット先端まで持っていき、手を放したところ、降ろしていたケーブルに「より」があったため暴れだし、構台上からケーブルが落ちだした。その際にケーブルに片足を払われ転倒し、肩をぶつけて被災した。	67	2	521	10～ 29
49	2016	5	16～ 17	足場組立完成後、前方パネルの組み立て準備を行っていた。被災者A、被災者Bは吊りチェーン用クランプに安全帯のフックを掛けていた。被災者Cは材料を取りに組み上がった足場上を安全帯を外し移動していた。被災者Aの安全帯がねじれていたため、被災者Bが直そうと前方へ移動した。その際、吊りチェーン用クランプが外れ足場が傾き、被災者A、被災者B、被災者Cの3名が足場から転落した。	52	1	411	10～ 29
50	2016	5	16～ 17	足場組立完成後、前方パネルの組み立て準備を行っていた。被災者A、被災者Bは吊りチェーン用クランプに安全帯のフックを掛けていた。被災者Cは材料を取りに組み上がった足場上を安全帯を外し移動していた。被災者Aの安全帯がねじれていたため、被災者Bが直そうと前方へ移動した。その際、吊りチェーン用クランプが外れ足場が傾き、被災者A、被災者B、被災者Cの3名が足場から転落した。	44	1	411	10～ 29
51	2016	4	8～9	敷地内で鉄筋工7名で底版下筋組立作業中に鉄筋を被災者他2名で杭頭鉄筋の上を越そうと上に持ち上げた際に左腕の痛み	38	19	521	1～9

				を訴えた。				
52	2016	4	9～ 10	橋台補修工事において埋め戻し作業中に、ボックスカルバート上の重機脇を歩いている途中、誤って落下した。	62	1	417	1～9
53	2016	4	15～ 16	クレーンを使用し、4人で横締めPCケーブルの挿入作業において、まずケーブルの先端部分を手で押さえ反対側をナイロンスリングで玉掛けし、クレーンで吊上げて挿入を開始した直後にケーブルがナイロンスリングから抜け落ちた。抜け落ちたケーブルは足場外周の単管手摺に当たりかなりの音が出た。その音に驚いた被災者は尻もちをつき転倒した。	41	2	372	10～ 29
54	2016	3	9～ 10	作業班長が舗装版剥ぎ取りの為、小割をしようと人力にて一時持ち上げた直後、被災者が作業班長の後ろに回りこみ、同様に人力にて持ち上げた。しかし、後方にいる被災者に気付かず作業班長が1人では無理だと判断し、舗装版より手を離れた際にそのまま舗装版が降下し、現地版と剥ぎ取り舗装版との間に指を挟まれ被災した。	24	7	523	50～ 99
55	2016	3	7～8	朝、現場に到着時4tダンプトラックの助手席より降りる時、飛び降りた。右膝にこくっと違和感と膝折れがあった。	60	3	221	1～9
56	2016	3	11～ 12	仮締切内部で引板支柱設置時、2段目腹起し上より、約4m下に転落し被災した。	42	1	412	30～ 49
57	2016	3	15～ 16	休憩を終えて、被災者は電動ピックを作業基地から作業場所まで小運搬のみを行った。電動ピックを置いて首を上げた時に、首の後ろ側が痛くなった。	70	99	999	1～9
58	2016	3	11～ 12	橋梁補修工事の足場解体（撤去）作業中に、2人一組で取り外し作業をしていたところ、安全帯は装着していたが使用しておらず、足場板を外した際に、勢いが余りそのまま足場板とともに6.7m下まで墜落した。	39	1	411	10～ 29
			10～	平坦な地面で、網状の袋材に玉石を充填する作業をバック				

59	2016	3	11	ホーと大工2人で行っていた。作業中、本人と重機との関係が取れず、不自然な姿勢となり腰痛を発症した。	57	19	921	1～9
60	2015	12	9～ 10	橋梁の建設現場で、トラッククレーンでPC板を移動台車に積込中、移動台車の側部にPC板を積み込もうとした際、台車にアンバランスな荷重が作用し斜めに傾き、積み込んでいたPC板が荷崩れを起こし、玉掛合番を行っていた被災者を挟み込んだ。	66	5	229	1～9
61	2015	12	11～ 12	橋台工施工現場で、被災者が堀削内へとはしごを使用して下部へと降りて清掃作業を行おうとしたため、上部へ戻るよう指示した。再びはしごを使用して上部へと登ったが、はしごを登り切り、腹起しの上に立った状態でバランスを崩し、約3.5m下の腹起し上へと落下した。	46	1	412	10～ 29
62	2015	12	10～ 11	橋梁補修工事において、足場の解体作業中、足を踏み外し、バランスを崩して河川敷に墜落した。	29	1	411	1～9
63	2015	12	10～ 11	吊り足場解体中、足場板上の幅止め単管パイプを外している時、吊りチェーンがないことに気付かず、幅止め単管パイプのクランプをゆるめた為、被災者が乗っていた鋼製足場板がバランスを崩し、足場材とともに3Mの高さから転落し、約30cm大の石に腰を強打した。	47	1	411	1～9
64	2015	11	13～ 14	PI橋脚フーチングの型枠組立作業中、被災者が1段目足場において、メタルフォームをボルトで締め付けていたところ、ラジエットがボルトからはずれ、その反動でバランスを崩し、高さ1.8mの1段目作業床より背中から墜落し、肋骨と腰椎を骨折した。	62	1	411	30～ 49
65	2015	11	11～ 12	橋に設置された吊り足場の解体作業中に、渡し単管の端部に固定していたキャッチクランプが外れ、上部で足場板を撤去していた作業員2名が墜落し、受傷した。	32	1	411	1～9
			12～					

66	2015	11	13	工事現場に行く途中、右カーブで立木に衝突した。	64	17	231	1～9
67	2015	11	9～ 10	吊り足場の解体作業（下面）時、情報管路（空間高さ0.6m）がある中桁付近で作業をしており、足場板を撤去し、外桁にいる作業員に手渡す作業を行っていたところ、誤って川に転落した。	53	1	411	1～9
68	2015	10	10～ 11	高架橋で基礎杭施工中、下杭を抗打機にセットするため、昇降装置に乗って無線で合図を行っていた。昇降装置の手摺りにおいていた自分の手と、合図により降下してきた鋼管回転装置の間に左手を挟まれ被災した。	23	7	143	1～9
69	2015	10	11～ 12	倉庫にて機材の整理中、H鋼を積み上げていた際、積んだH鋼のずれを直した時にH鋼が崩れて、右足に落ちて負傷した。	51	5	521	30～ 49
70	2015	9	8～9	橋台ベース鉄筋上で、足場の組立時に足場2段目に置いていた材料が不安定だったため、1段目で布板を設置の際の振動で資材が落下して下に居た作業員に当り負傷。	21	4	411	1～9
71	2015	9	16～ 17	棚上段と角材の上に片方ずつ足を乗せて、棚上段の箱の中を確認していたが不注意により、角材と棚の間に落ちそうになりとっさに左腕で全体重を支えた為に左腕を強打。	41	1	418	10～ 29
72	2015	9	11～ 12	橋梁工事現場において、使用しなくなった排水ポンプのビニール製ホース（径5cm）を切断する為カッターナイフ（幅3cm、長さ15cm）を使用して作業していたが、手元が滑り手の甲を裂傷した。	63	8	364	10～ 29
73	2015	8	10～ 11	道路脇の法面で大型土のうと敷鉄板を使用して作業ヤードとし、モルタルをモルタルミキサーにより練り圧送する作業を行っていた。モルタルミキサーの脇に使用済みになったセメント用の空きパレットを順次重ねて足場として使用していた。パレットが5段になった段階でモルタルミキサーのセメント投入用の仮受金具にセメントを2袋乗せ投入する際に金	71	1	416	1～9

				具に右足を乗せた時、モルタルミキサーが傾き、被災者はバランスを崩して、敷鉄板に尻もちをつき反動で県道脇の側溝に頭から転落した。				
74	2015	7	10～ 11	仮橋構台解体作業中、鋼管を引き抜き、鋼管の中の泥を落とすため、主桁の上でバイブロを作動して泥落としの作業をしていた。バイブロの反動で主巻フックからバイグロが外れ、シャックルで捕巻きに掛けていたワイヤーが張り回って、鋼管が千切れて落下した。その時、鋼管の先端がクレーンの横にいた被災者に当り、12m下に落下した。	45	6	143	30～ 49
75	2015	6	10～ 11	吹付作業中、材料ホース内へモルタル材料が詰まったため吹付け機からの圧送を一時中断し詰まった箇所のホースジョイント部を取り外して空気圧縮機からエアにて圧送したところ、先端部でホースを抑えていた手が滑り、ホースの吹き出し口のジョイント金具が右足に当たり骨折した。	32	6	221	10～ 29
76	2015	6	15～ 16	資材置場において、鉄筋を円形加工しながら、順次トラックに積込んでいたところ、ロープにて固定する前に、積荷のバランスが悪くなり、荷崩れを起し、それを手で受け止めようとしたところ、左腕にあたり受傷した。	46	4	611	10～ 29
77	2015	5	15～ 16	橋梁上から橋梁下部の組立て作業の資材の受渡し作業中、橋梁上から2m鋼管パイプを高欄越しに手渡ししようとして高欄より身を乗り出しすぎてバランスを崩して下部組立中の足場上に転落。	40	1	418	1～9
78	2015	5	12～ 13	RC橋脚築造工事において現地盤面より5.8m下の底版部において鉄筋組立（結束）作業を行っていた。昼食時間になり現場事務所に戻る途中で、高さ2.5mの足場から転落した。	69	1	371	10～ 29
79	2015	5	15～ 16	メタル型枠大判型枠の小ばらし時に型枠締め付け用ライトビームを移動させる際に、右肩に違和感を覚えた。	53	19	521	1～9
				資材ヤード内、物置きにて棚最上段にある電工ドラムを脚立				

80	2015	5	9～ 10	を使い取ろうとした所、誤ってバランスを崩し脚立ごと転倒してしまった。	65	1	371	10～ 29
81	2015	5	16～ 17	仮置きしていた足場資材を片付・移動作業をしていた。バックホーでH-200を玉掛けワイヤー2本で吊り上げ、旋回中に荷下ろし場所にいた被災者が介錯しようとして手を当てたところ、H鋼がずれて右手親指が挟まり被災した。	31	7	212	50～ 99
82	2015	5	10～ 11	建物のドア解体の為玉掛けをしようと隣接する屋根にハシゴで登る途中、強風で体のバランスを崩し、高さ2m位のハシゴからコンクリート地面に飛び降りた際に右足踵を骨折した。	43	3	371	1～9
83	2015	4	9～ 10	2人で型枠材料を天井クレーンで荷降ろししていた。被災者が目標位置の上に資材が来るのを確認し、下に敷く台木を取りに行こうと後ろを振り向いた瞬間、吊チェーンが破断し、資材が約6mの高さから落下した。落下のショックで型枠資材が跳ね、被災者の背中から足にかけて資材が衝突した。	56	4	372	30～ 49
84	2015	4	8～9	山留材を設置箇所から撤去後、地上部において、小ばらしする作業を行っていたところ、中段と上段の山留材がバランスを崩し作業員に倒れてきたことにより、地面と山留材に左膝を挟まれ裂傷を負った。	38	5	419	10～ 29
85	2015	4	10～ 11	オーガーヘッドの鉄製スクリューのゆがみをハンマーで叩いて修復していたところ、破片が左目に入った。	45	4	364	10～ 29
86	2015	3	8～9	高速道路の補修工事に従事中4トン平車の荷台から降りる際に、アオリのフック部にズボンをつかかってバランスを崩し落下して、道路上にあったものに当たり、右足ふくらはぎ上部を裂傷した。	47	1	221	10～ 29
87	2015	2	11～ 12	地盤改良工事において、事前ボーリング調査結果の確認の為、調査掘削を行っていた。被災者は、何らかの理由で掘削箇所に立ち入ったところ、掘削内部の側面の土砂が崩壊し被	42	5	711	1～9

				災した。				
88	2015	2	11～ 12	高さ90cmの作業床（幅50cm）上でワイヤーの展開作業中、ワイヤーにヨリが生じて跳ね上がり、それに驚いた被災者は後ずさりした際、作業床から足を踏み外し地上へ転落した。	55	1	411	50～ 99
89	2015	2	11～ 12	軽ダンプの荷台に積んであった3台の発電機を卸している最中2台目を卸終わった時3台目が荷台から落ちて右足くるぶし上に当たり受傷した。	42	4	221	1～9
90	2015	1	11～ 12	工事の橋脚で土留支保工の腹起しを撤去する作業中に腹起しにワイヤーをかけ、吊る前にボルトを外した為、腹起しと共に地面に落下し、右大腿骨頸部を骨折した。	50	1	412	1～9
91	2014	12	14～ 15	橋梁床版上の外型枠端部組立作業時に、床面端部の切欠き部を無くすために、左手で小物コンパネを押さえつけて、電動丸ノコで切断していたところ、電動丸ノコの回転振動でコンパネが動き、左手親指を切断した。	51	8	131	10000 ～
92	2014	12	10～ 11	橋台底版上にて、誘発目地誘導板を運ぶ作業中、誘導板を持ち上げる際、誘導板3枚がくっ付いており、1枚に剥がそうとするが離れず、その拍子で後ろに足を滑らせ、体が仰向けの状態で底版より高さ1.9m下の地面に落下し、顔面を強打し鼻骨を骨折した。	70	1	416	10～ 29
93	2014	12	10～ 11	橋梁補修工事の内橋脚耐震補強工において、橋脚回りを鋼矢板（幅40cm、長さ5m+5m+4.5m=14.5m3枚の矢板を順番に溶接して圧入する）で囲む為、鋼矢板にワイヤーを掛けてクレーンにてパイラーの所へ持って行った際に、五掛ワイヤーの位置が悪くクレーンのブーム先端が橋桁に当たりそうになった為に、もう一度五掛ワイヤーの位置を直すために矢板のあった場所に戻そうとして、鋼矢板の片側端部を下に降ろした時に、もう一つの端部のプレートがクレーンの親フックに引っ掛かり、鋼矢板を吊っていた子フック	33	4	372	1～9

				クのワイヤーが緩み外れて鋼矢板が落下して跳ね、被災者の左足甲に当たり負傷したもの。				
94	2014	12	17～ 18	橋梁補修工事の仮設足場において、シートの雪下ろし作業中にバランスを崩し、背後の足場へ背中を強打し、負傷した。	28	3	411	10000 ～
95	2014	11	10～ 11	土留材組立作業時、ラフタークレーンにて土留材の荷卸を行っている時、土留材が滑り、仮置きしていた2段目の土留材にあたり2段目の土留材が落下。組立て作業中の被災者の右足に直撃した。	63	5	521	10～ 29
96	2014	11	15～ 16	橋の補修工事をするために安全帯を装着し、ラジエットを用いて吊足場の設置作業をしていたところ、ワイヤーが外れ足場板ごと6m下の川へ転落し行方不明となった。後日川底で沈んでいるのが発見され死亡が確認された。	17	10	411	10～ 29
97	2014	11	11～ 12	道路本線部分の土工事で、掘削・積込作業及びクローラダンプによる場内運搬作業をする場所で被災者がエンジンのかかった状態のクローラダンプの荷台に乗り、切土法面の丁張りを確認しようとしたところ、クローラダンプが動き荷台から転落した。	64	1	227	10～ 29
98	2014	11	16～ 17	施設解体現場で、重機（バックホウ）でバックで移動中、被災者がオペレーターに報告があった為重機に近づいた。バックしていたので柱の陰に退避する際柱廻りの基礎に足をかけた時転倒したところに重機の左キャタピラーに両足を轢かれた。	22	7	142	30～ 49
99	2014	11	16～ 17	道路改良工事現場内で側溝入れ替えの床堀作業中、既設側溝に置いた敷鉄板に、進入してきた4tダンプが上った時、鉄板の反対側が浮き上がり、つま先がはじかれ鉄板の下に左足つま先が入り挟まれた。	54	7	521	10～ 29
100	2014	10	22～	塗装工事における足場解体作業中、足場上にてチューブライトを撤去していたところ、バランスを崩し歩道上に転落し負	33	1	411	10～

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各小業種における死傷災害100事例（-2017年）](#)に戻る。